

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/08/01

ECBの政策対応とユーロの反応を見極める

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	↓	くすぶり続ける下落リスク 予想レンジ: 91.00円~98.50円	2-3
ユーロ/ドル	→	米欧の金融政策が目先の焦点に 予想レンジ: 1.1950~1.2650ドル	4-5
ポンド/円	↓	下押し要因の方が目立つ 予想レンジ: 117.00 ~ 127.00 円	6-7
ポンド/ドル	→	欧州・米国要因で動く相場が続く 予想レンジ: 1.5250 ~ 1.6250 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



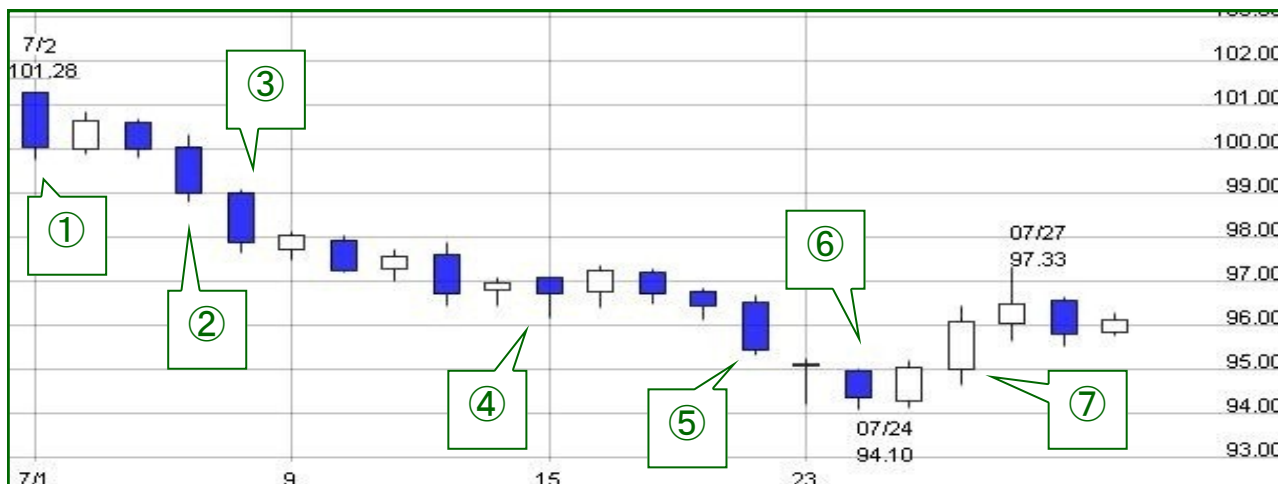
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	101.28円	101.28円	94.10円	96.12円



①	2日、前週の欧州連合(EU)首脳会議での合意を好感する形でユーロは上昇して始まったが、フィンランド政府が「フィンランドとオランダは欧州安定メカニズム(ESM)が流通市場で債券を購入することを認めない方針である」との見解を示すとユーロ売りが強まった。さらに米6月ISM製造業景況指数が49.7と市場予想(52.0)および景況感の境目の50.0を下回ったことを受けてドル/円が急落すると、ユーロ/円は99.76円まで値を下げた。
②	5日、欧州中銀(ECB)は予想通り政策金利を0.25%引き下げ、過去最低の0.75%とした。ただ、同時に中銀預金金利を0.00%まで引き下げた事が予想以上の金融緩和と受け止められユーロ売りが強まった。さらにその後、ドラギECB総裁が会見で「追加の長期資金供給オペ(LTRO)やその他の非標準的措置に関する討議はなかった」などと発言するとスペインやイタリアの10年債利回りが上昇し、ユーロ/円は98.79円まで一段安となった。
③	6日、米6月雇用統計は失業率が8.2%と市場予想通りだったものの、非農業部門雇用者数が8.0万人増と市場予想10.0万人増を下回った。これを受けてNYダウ平均先物が下落するとユーロ/円は97.56円まで下落した。
④	16日、「独連邦憲法裁判所はESMが合憲か違憲かについての判断を9月12日に決定する」と伝えられると、ESMが予定通り7月に始動する事は困難との懸念が広がリスペインやイタリア国債の利回りが上昇。ユーロ/円は96円台前半まで下落した。
⑤	20日、一部通信社が「スペインのバレンシア州が債務を返済するために同国政府の支援を要請する」と報じた事に加え、ECBが25日からギリシャ国債を資金供給オペの担保対象から除外すると発表した事から、ユーロ/円は95.35円まで下落した。
⑥	24日、前日のNY市場終了間際に格付け会社ムーディーズが、ドイツやオランダなどの格付け見通しを「ネガティブ」(南欧諸国への一段の支援強化が見込まれるため)とした事に加え、EU筋が「ギリシャはEU・国際通貨基金(IMF)と合意した債務削減目標を達成できない見通しであり、追加の債務再編が必要」との見解を示した事を受けて、ユーロ/円は11年8ヶ月ぶりの安値となる94.10円まで下落した。
⑦	26日、ドラギECB総裁が「政府の借入れコストが不当に上昇している事への対処を含め、ユーロ圏を崩壊から守るためにできる事を、責務の範囲内で何でもする用意がある」などと発言すると、ECBによる証券市場プログラム(SMP)再開への期待からスペイン国債利回りが急低下。ユーロ/円は96円台を回復した。

EUR/JPY

今月のポイント

7月のユーロ/円相場は94.10円～101.28円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.9%の下落（ユーロ安・円高）となった。スペインへの融資に対する各国政府の優先弁済権返上や、欧州統一銀行監督メカニズムの創設と、それに伴うESMによる銀行への直接的な資本注入などに合意した6月末のEU首脳会議を好感するムードは長続きしなかった。スペインの地方政府の財政悪化やギリシャの追加的な債務再編の可能性がクローズアップされた事から、ユーロ/円は24日には一時11年8ヶ月ぶりの安値となる94.10円まで下落した。その後、ECBによる証券市場プログラム(SMP)再開や長期資金供給オペ第3弾(LTRO3)への期待感が高まり、やや反発しているものの、これらの施策はスペインやギリシャの財政状況を改善させるものではなく「対症療法」に過ぎない点を考慮すると、ユーロ上昇へのトレンド転換材料にはなり得ないだろう。

また、ECBの金融緩和強化は、中長期的な視点からはユーロの下落材料でもある。8月2日のECB理事会で追加策が講じられたとしても、持続的なユーロの上昇は望みにくく、ユーロ/円の上値は重いと見られる。スペインやギリシャの情勢については、劇的に好転する可能性よりも持続的に悪化するリスクのほうが高いと見られ、ユーロの下落リスクはくすぶり続ける事になるだろう。(神田)

(予想レンジ:91.00円～98.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

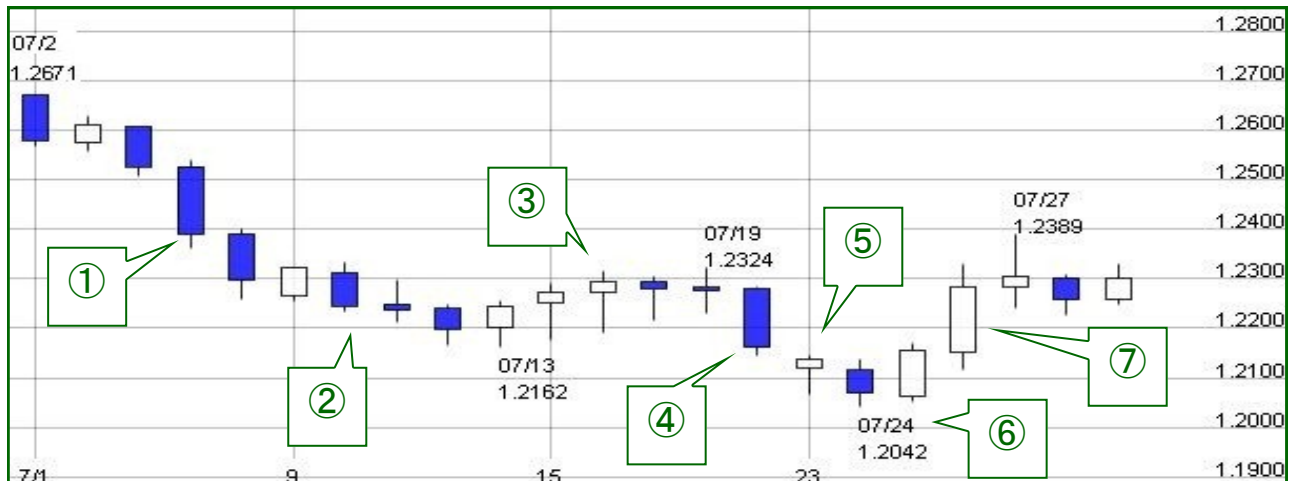
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月米ISM製造業景況指数	8/14(火)	第2四半期ユーロ圏GDP・速報値
	米FOMC政策金利発表		6月ユーロ圏鉱工業生産・季調済
8/2(木)	6月ユーロ圏生産者物価指数		8月独ZEW景況感調査
	欧州中銀金融政策発表		7月米小売売上高
8/3(金)	6月ユーロ圏小売売上高	8/23(木)	8月ユーロ圏PMI製造業・速報
	7月米雇用統計	8/22(水)	7月本邦通関ベース貿易収支
	7月米ISM非製造業景況指数	8/23(木)	8月ユーロ圏消費者信頼感・速報
8/9(木)	日銀金融政策決定会合(8日～)	8/27(月)	8月独IFO景況指数
	7月中国消費者物価指数	8/29(水)	8月独消費者物価指数・速報
	7月中国鉱工業生産	8/31(木)	8月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	ECB月例報告		7月ユーロ圏失業率
8/13(月)	第2四半期本邦GDP・一次速報		バーナンキ米FRB議長講演

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2671ドル	1.2671ドル	1.2042ドル	1.2301ドル



- ① 5日、欧州中銀(ECB)は予想通り政策金利を0.25%引き下げ、過去最低の0.75%とした。ただ、同時に中銀預金金利を0.00%まで引き下げた事が予想以上の金融緩和と受け止められユーロ売りが強まった。さらにその後、ドラギECB総裁が会見で「追加の長期資金供給オペ(LTRO)やその他の非標準的措置に関する討議はなかった」などと発言するとスペインやイタリアの10年債利回りが上昇し、ユーロ/ドルは1.2363ドルまで一段安となった。
- ② 10日、9日に行われたユーロ圏財務相会合で「スペインの財政赤字目標達成時期を2014年まで1年延長」などとする声明が発表されたが、救済基金による国債買い入れについての協議に進展がなかった事からスペイン10年債利回りが7%を超えて上昇。さらにモンティ伊首相が「欧州安定メカニズム(ESM)の活用を排除しない」と発言した事も重石となり、ユーロ/ドルは1.2235ドルまで下落した。
- ③ 17日、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が、議会証言で量的緩和第3弾(QE3)について具体的に言及しなかった上に「量的緩和はリスクをもたらし、安易に活用されるべきではない」などと発言した事を受けてドル買いが強まるとユーロ/ドルは1.2190ドルまで急落した。しかし同議長が証言後に行われた質疑応答で「一段の量的緩和は実行可能で、連銀貸出や超過準備への付与水準引き下げも可能」と発言すると一転してドル売りが優勢となり、ユーロ/ドルは買い戻された。
- ④ 20日、一部通信社が「スペインのバレンシア州が債務を返済するために同国政府に支援を要請する」と報じた事に加え、ECBが、25日からギリシャ国債を資金供給オペの担保対象から除外すると発表した事から、ユーロ/ドルは1.2143ドルまで下落した。
- ⑤ 23日、前週末にスペイン紙がバレンシア州に続き、6つの州が中央政府への支援要請を検討している、と報じたことや、独誌が「国際通貨基金(IMF)はギリシャへの融資実行を停止する」「そのため、同国は9月に債務不履行に陥る可能性が高まる」などと報じたことなどを背景にユーロ/ドルは1.21ドル台を割り込んだ。しかし、その後はユーロキャリートレードの巻き戻しから対オセアニア通貨でユーロを買い戻す動きが強まった事などから1.2143ドルまで反発した。
- ⑥ 24日、前日のNY市場終了間際に格付け会社ムーディーズが、ドイツやオランダなどの格付け見通しを「ネガティブ」(南欧諸国への一段の支援強化が見込まれるため)とした事に加え、EU筋が「ギリシャはEU・国際通貨基金(IMF)と合意した債務削減目標を達成できない見通しであり、追加の債務再編が必要」との見解を示した事を受けて、ユーロ/ドルは1.2042ドルの約2年ぶり安値を付けた。
- ⑦ 26日、ドラギECB総裁が「政府の借り入れコストが不当に上昇している事への対処を含め、ユーロ圏を崩壊から守るためにできる事を、責務の範囲内で何でもする用意がある」などと発言すると、ECBによる証券市場プログラム(SMP)再開への期待が高まり、ユーロ/ドルは1.23ドル台を回復した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

7月のユーロ/ドル相場は1.2042ドル～1.2671ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.7%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。6月末のEU首脳会議の合意を好感したユーロ上昇は早々に失速し、スペインの地方財政やギリシャの追加的な債務再編への懸念から、ユーロ/ドルは24日に一時、約2年2カ月ぶりの安値となる1.2042ドルまで下落した。しかしその後はECBのドラギ総裁が「なんでもする用意がある、私を信じて欲しい」として、これまであまり積極的ではなかった債務危機対応に乗り出す姿勢を打ち出した事を受けて1.23ドル台までユーロの買戻しが進んだ。

8月のまず第1の焦点は2日に開催されるECB理事会だろう。ドラギ総裁の発言を受けて国債買い入れ(証券市場プログラム:SMP)再開や長期資金供給オペ第3弾(LTRO3)など、ECBによる政策対応期待が高まっている。これらが実際に導入され、スペインやイタリアの国債利回りが一段と低下すれば、もう一段のユーロ買戻しが進む事になりそうだ。もっとも、ECBの金融緩和強化は、中長期的にはユーロ安につながる材料であり、すでに豪ドルなどの高金利通貨に対してはユーロ安が進んでいる。したがって買い戻し以上のユーロ買い材料にはなりにくいと見られる。また、米国の金融政策の動向もユーロ/ドル相場に大きく影響しそうだ。8月1日のFOMCでは量的緩和第3弾(QE3)が導入される可能性は低い、9月のFOMCに向けてQE3導入の地ならしを行うとの見方もある。大規模な緩和の可能性が示されればドル安・ユーロ高が進む可能性がある一方で、緩和観測が後退すればドル高・ユーロ安に振れる可能性もある。21日に公表される1日のFOMCの議事録や31日のバーナンキ議長のジャクソンホールでの講演にも注目が集まる。

少なくとも、欧州債務問題に対する過度の懸念が一服している間は、こうした米欧の金融政策が相場の焦点になると見られる。(神田)

(予想レンジ:1.1950ドル～1.2650ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月米ADP全国雇用者数	8/15(水)	8月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	7月米ISM製造業景況指数		7月米鉱工業生産
	米FOMC政策金利発表	8/16(木)	7月米住宅着工件数
8/2(木)	欧州中銀金融政策発表	8/17(金)	8月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
8/3(金)	6月ユーロ圏小売売上高	8/23(木)	8月ユーロ圏PMI製造業・速報
	7月米雇用統計	8/21(火)	FOMC議事録(7月31日・8月1日分)
	7月米ISM非製造業景況指数		8月ユーロ圏消費者信頼感・速報
8/9(木)	7月中国消費者物価指数	8/23(木)	7月米新築住宅販売件数
	7月中国鉱工業生産	8/27(月)	8月独IFO景況指数
	6月米貿易収支	8/28(火)	8月米消費者信頼感指数
8/14(火)	第2四半期独GDP・速報値	8/29(水)	第2四半期米GDP・改定値
	第2四半期ユーロ圏GDP・速報値	8/31(木)	8月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	8月独ZEW景況感調査		7月ユーロ圏失業率
	7月米小売売上高		バーナンキFRB議長講演

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	125.42円	125.48円	120.82円	122.44円



①	5日、ドル/円が上昇すると124.85円まで連れ高したが、日経平均が失速すると反落した。なお、英中銀(BOE)の資産買い入れ枠が市場予想通り500億ポンド拡大されたが、反応は限定的だった。
②	6日、発表された米6月雇用統計は失業率こそ8.2%と市場予想通りだったものの、非農業部門雇用者数が8.0万人増と市場予想(10.0万人増)を下回った。これを受けて時間外のNYダウ平均先物が急落すると、ポンド/円も下落。NY株式市場引けにかけては123.06円まで値を下げた。
③	12日、日銀が金融政策決定会合後の声明で「短期国債買い入れオペを5兆円前後増額」を発表すると、ポンド/円は上昇したが、「固定金利オペを5兆円減額」とも発表すると、結果的に緩和が見送られたことから円買い戻しが優勢となり、反落。さらに、米新規失業保険申請件数が予想より強い結果となり、対ドルでポンド/ドルでドル買い・ポンド安が進むと、ポンド/円は122.04円まで連れ安した。
④	18日、BOEの金融政策委員会(MPC)議事録が発表され、7対2と大差で資産購入枠の500億ポンド拡大が決まった上、750億ポンドの拡大や、「新たな対応策の評価後に利下げを検討する可能性がある」との内容を受けてポンド安が進行。ただ、123円台前半では底堅く推移した。
⑤	20日、「スペインのバレンシア州が中央政府に支援要請」との一部報道や、欧州中銀(ECB)がギリシャ国債を担保対象から除外すると発表した事を受け、欧米株が軟調に推移すると、ポンド/円も下落した。
⑥	23日、バレンシア州に続きスペインの6つの州が中央政府への支援要請を検討していると報じられたことや、独誌が「国際通貨基金(IMF)はギリシャへの融資実行を停止する」などと報じたことなどを背景にユーロ/円が大きく下落すると、ポンド/円も連れ安した。
⑦	25日、オーストリア中銀のノボトニー総裁が「欧州安定メカニズム(ESM)に銀行免許を与える議論が見込まれる」と発言した事をきっかけにユーロの買戻しが強まった。この発言の影響からスペイン国債利回りが低下し、欧州株が堅調に推移する中で、ポンド/円は121.69円まで上昇したが、英4-6月期国内総生産(GDP)が前期比-0.7%と予想(-0.2%)を大きく下回ると失速した。
⑧	26日、ドラギECB総裁が「ECBは政府の借入れコストが不当に上昇している事への対処を含め、ユーロ圏を崩壊から守るために責務の範囲内で何でもする用意がある」などと発言すると、欧米株が大幅に上昇。米新規失業保険申請件数の良好な結果もあって株高が進むとポンド/円は大幅高となった。
⑨	27日、米4-6月期GDP・速報値が前期比年率+1.5%と予想(+1.4%)を上回り欧米株が上昇したことや、「ドラギECB総裁とパイトマン独連銀総裁が債券購入や利下げ、新LTROなどについて協議する見通し」と報じられユーロ/円が上昇したことを受けて123.75円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

7月のポンド/円相場は120.82円～125.48円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.2%の下落(ポンド安・円高)となった。この月のポンド/円相場は、引き続き欧州の債務問題への懸念が圧迫要因となった他、BOEの資産購入枠拡大と来月以降の追加の金融緩和観測やドル/円での円高の進行が重石となり、下落した。

8月もポンドを取り巻く環境は7月とさほど変わりそうにない。欧州の債務問題に対する懸念を煽る材料は引き続きポンド/円の押し下げ要因となり続ける見通しだ。また、BOEは依然として金融政策が緩和方向に向いている状態にある。8月の金融政策委員会(MPC)では追加の金融緩和を読む向きは少ないものの、英経済指標の弱い結果や、BOE四半期インフレ報告やMPC議事録などから9月の追加措置への期待が高まれば、ポンドの売り要因になるだろう。さらに、米国の量的緩和第3弾に対する期待感が強い限り、ドル/円の軟調推移も続くと考えられる。これもポンド/円には押し下げ要因になると考えられる。

このようにポンド/円に関しては下向きの圧力をかける材料が多く見られることから、当面は欧州債務問題に急な進展が見られない限り、軟調に推移する公算が大きいと見る。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 117.00～127.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

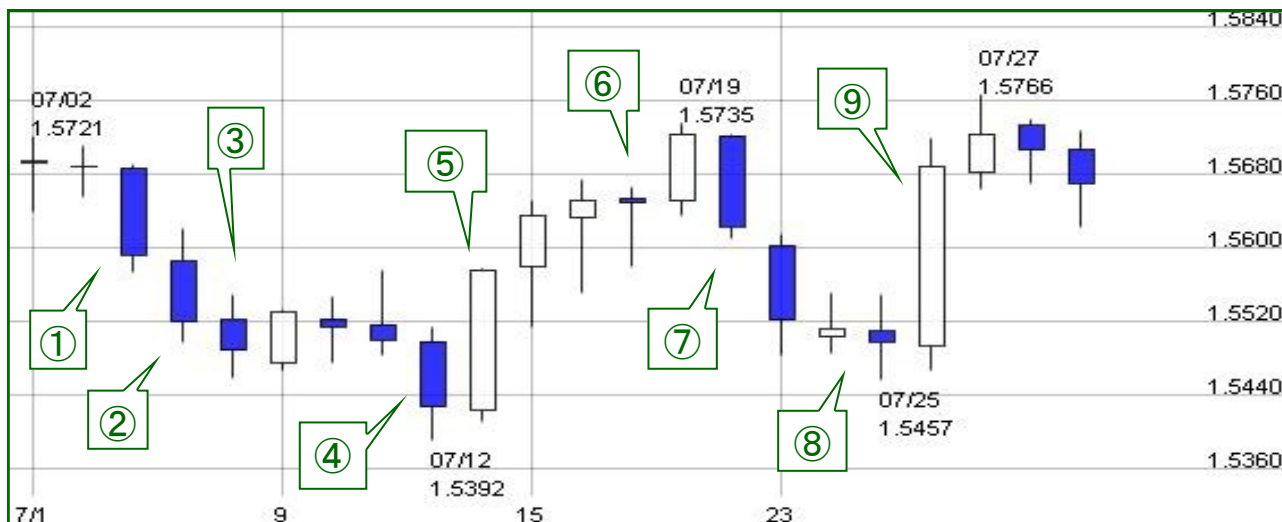
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月英PMI製造業	8/9(木)	7月中国消費者物価指数
	7月米ADP全国雇用者数		6月英商品貿易収支
	7月米ISM製造業景況指数		日銀金融政策決定会合(8日～発表)
	FOMC政策金利発表	8/13(月)	第2半期日GDP・一次速報
8/2(木)	7月英PMI建設業	8/14(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月11日・12日分)
	BOE政策金利発表		7月英消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表	8/15(水)	7月英雇用統計
8/3(金)	7月英PMIサービス業		BOE議事録
	7月米雇用統計	8/17(金)	7月英小売売上高指数
	7月米ISM非製造業景況指数	8/22(水)	7月日通関ベース貿易収支
8/7(火)	6月英鉱工業生産	8/24(金)	第2四半期英GDP・改定値
8/8(水)	6月日経常収支	8/31(金)	8月米シカゴ購買部協会景気指数
	BOE四半期インフレレポート		バーナンキFRB議長講演

各項目の付記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5693ドル	1.5766ドル	1.5392ドル	1.5671ドル



①	4日、ドイツ国債の償還に絡んだユーロ売り等によってユーロ/ドルが値を下げると、ポンド/ドルも連れ安。NY市場に入り独財務相が「9日のユーロ圏財務相会合でスペイン銀行向け支援が決まるかは不透明」との見方を示した事でこの傾向はさらに強まり、ポンド/ドルは1.5574ドルまで値を下げた。
②	5日、英中銀(BOE)の資産買い入れ枠が市場予想通り500億ポンド拡大されたが、この件についての反応は限定的。その後、米6月ADP全国雇用者数が17.6万人増(市場予想:10.0万人増)や新規失業保険申請件数が市場予想を上回ったことを受けたドル買いや、ドラギECB総裁が欧州経済の下ブレ懸念を示したことを受けたユーロ/ドルの下落などを受けて、ポンド/ドルは1.5498ドルまで下落した。
③	6日、21時30分に発表された米6月雇用統計は失業率こそ8.2%と市場予想通りだったものの、非農業部門雇用者数が8.0万人増と市場予想(10.0万人増)を下回った。これを受けてNYダウ平均が急落すると、ポンド/ドルも1.5459ドルまで値を下げた。
④	12日、主要国株安を受けて軟調に推移。米新規失業保険申請件数が35.0万件と予想(37.2万件)より強い結果だったことで、ポンド/ドルはドル買い・ポンド安が進行すると1.5392ドルの安値をつけた。
⑤	13日、中国の4-6月期国内総生産(GDP)の減速ぶりが市場の想定内の結果となった上、JPモルガンの決算が44億ドルもの巨額損失になったものの、通常業務の収益が堅調で損失をカバー出来る範囲内に留まったことからNYダウ平均が上昇。これを受けてポンド/ドルは大きく上昇した。
⑥	18日、BOEの金融政策委員会(MPC)議事録が発表され、7対2と大差で資産購入枠の500億ポンド拡大が決まった上、750億ポンドの拡大や「新たな対応策の評価後に利下げを検討する可能性がある」との内容を受けてポンド安が進行。しかし、バーナンキFRB議長が「雇用の改善が見られない場合は追加の行動を取る用意がある」と発言するとドル売りが強まり、ポンド/ドルは下げ幅を圧縮した。
⑦	20日、「スペインのバレンシア州が中央政府の支援要請」との一部報道や、欧州中銀(ECB)がギリシャ国債を担保対象から除外すると発表した事で欧米株が軟調に推移すると、ポンド/ドルも下落した。
⑧	25日、オーストリア中銀のノボトニー総裁が「欧州安定メカニズム(ESM)に銀行免許を与える議論が見込まれる」と発言した事をきっかけにユーロの買戻しが強まった。この発言の影響からスペイン国債利回りが低下し、欧州株が堅調に推移する中で、ポンド/ドルは1.5549ドルまで上昇。しかし、英4-6月期GDPが前期比-0.7%と予想(-0.2%)を大きく下回ると失速した。
⑨	26日、ドラギECB総裁が「ECBは政府の借入れコストが不当に上昇している事への対処を含め、ユーロ圏を崩壊から守るために責務の範囲内で何でもする用意がある」などと発言すると、欧米株が大幅に上昇。米新規失業保険申請件数の良好な結果もあって株高が進むとポンドは大幅高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今月のポイント

7月のポンド/ドル相場は1.5392ドル～1.5766ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。この月のポンド/ドルは、欧州債務問題を嫌気し、リスク回避目的のポンド安・ドル高が進行したが、米国では次第に量的緩和第3弾(QE3)観測が徐々に強まり、これがポンド/ドルの下値を支えた。英国も追加の資産購入枠拡大を実行した上、今後さらなる拡大の可能性や利下げの可能性が残る結果になったこともポンドの重石となり、方向感が出ないままこの月を終えた格好だ。

8月は引き続き米国の金融政策と欧州債務問題に対する懸念の強弱がポンド/ドル相場の方向感を決める主要因になるとみる。

欧州の問題については2日のECB理事会の後には主に経済ニュースで状況を確認していく流れになるだろう。欧州への先行き不安が強まればユーロ/ドルが下押し、ポンド/ドルの上値を抑える要因になりそうだ。一方、米国については1日発表のFOMC声明や3日発表の米7月雇用統計などその他経済指標、FOMCメンバーの発言などから、9月のFOMCでのQE3導入の可能性をうかがっていく展開が予想される。QE3の9月導入期待が高まれば、これはドル安要因になる。

なお、英国の金融政策について、現時点では7月に資産購入枠を拡大したばかりということもあり、8月の追加緩和期待は低めだ。ただ、8月はBOEの四半期インフレ報告が発表される。ここで示される経済と物価の見通しが前回報告(5月)から修正されていけば、その後の英金融政策についての見方とポンド相場に影響を及ぼすだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.5250～1.6250ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(水)	7月英PMI製造業		6月英商品貿易収支
	7月米ADP全国雇用者数	8/14(火)	7月英消費者物価指数
	7月米ISM製造業景況指数		7月米小売売上高
	FOMC政策金利発表	8/15(水)	7月英雇用統計
8/2(木)	7月英PMI建設業		BOE議事録
	BOE政策金利発表		8月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
	欧州中銀金融政策発表		7月米鋳工業生産
8/3(金)	7月英PMIサービス業	8/17(金)	7月英小売売上高指数
	7月米雇用統計		7月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	7月米ISM非製造業景況指数	8/21(火)	FOMC議事録(7月31日・8月1日分)
8/7(火)	6月英鋳工業生産	8/24(金)	第2四半期英GDP・改定値
8/8(水)	BOE四半期インフレレポート	8/31(金)	8月米シカゴ購買部協会景況指数
8/9(木)	7月中国消費者物価指数		バーナンキFRB議長講演

巻頭の特記事項を必ずお読みください。